

災救通信

平成30年
8月1日
第15号

発行

天理教
災害救援
ひのきしん隊
北海道教区隊

逐次発行

西日本豪雨災害

先月5日頃から西日本各地では大雨特別警報が発令され、記録的な大雨となり、河川の氾らんや土砂崩れが相次いで起こり、九州の各地や広島、岡山を中心に兵庫、京都、愛媛などの13府県では死者行方不明者あわせて200人を超える大災害が発生した。この豪雨による避難者は1万人をこえるという。こうしたことから各地では早速救援活動が展開されている。被災された方々には心よりお見舞いを申し上げます。

洞爺湖町にて

平時訓練

6月29日〜7月1日の日程で虻田郡洞爺湖町に於いて今年の訓練が実施された。洞爺湖町（旧虻田町）では昭和52年（1977）8月に有珠山の噴火に伴う災害が発生し、以後救援活動や緑化活動を災救援や青年会が継続して行ってきた。そうした中平成12年（2000）3月にも再び噴火が起こり、町は

しばらく廃墟となったが状況が落ち着くとすぐに、温泉街の各所を中心に災救援などが除灰作業を行った。

こうしたことから町とのつながりは深く、旧洞爺村で青年会本部主催のE.V.Y（イングリッシュユバケーションフォーリス）が開催され現真柱様が青年会長時代にご視察され有珠山にもご登頂いただいた。また、中田善亮現表統領も本部委員長時に教区青年会緑化ひのきしんに参加、更に久保善平本部員も本部委員長時に緑化20周年に来町され、それぞれ記念植樹を行った。更にまた、記憶に新しい平成27（2015）年、中山大亮青年会長様にもご来町いただき緑化ひのきしんの30周年が盛大に行われ、会員に直接お言葉を頂戴し青年会活動の躍進を誓い合い、とうや湖コミュニティセンター横の広場に記念植樹くださった。

災救援としても、青年会としても、こうした思い出深い地で訓練が行われ、作業や規律、セレモニーはもちろん充実したものとなったが、隊員相互に思い出話や現在の思いを語り合い、布教やおたすけ、教会活動などの話しにも話しが進み、大きな刺激を受けての訓練となった。

宣誓
我々は天理教災害救援ひのきしん隊員であります。一列兄弟の自覚に立ち、真実をもって救援活動にあたります。



2005.8.20



2015.8.30



1988.7.1

すべて緑化ひのきしんの記念植樹でコミセン横にあります。右、当初有珠山外輪に植樹したが噴火後に今井教区副隊長が移植。善平先生のも桜公園から移植。

結隊式

6月29日昼頃になると隊員が続々と宿舍となった、とうや湖コミュニティセンターに集結しはじめ、13時、結隊式に向け規律訓練が開始された。「休め！気をつけ！」の号令。隊員は3班に分かれ早速点呼を行った。「整頓！」の号令に続き、洞爺湖町長はじめ来賓が入場し結隊式が行われた。

最初に奥村教区隊長からあいさつがあり、続いて真屋敏春洞爺湖町長の来賓あいさつをいただく。真屋町長は「これまでの天理教としての活動に深く感謝を申し上げる。救援活動はもちろんのこと、2008年噴火後の枕木敷設では大変お世話になった。そうした足跡のおかげによって2008年先進国首脳会議G8開催、2009年世界ジオパークに日本で第1号に認定されることとなった。みなさまにここ洞爺湖町で訓練してもらえらることは本当にありがたい限り。」と述べた。



ピリッと引き締まったセレモニー。



岡崎室蘭支部長

続いて岡崎秀人室蘭支部長から「地震の国、日本にあつて有珠山を有する当支部は、いつ噴火が起きうるかも知れないという中で、有事に備えた相談や準備を始めている。ここでの過去の災害を振り返ると、本当に大変だったということが浮かび、その後の訓練などを思い出す。訓練は単なる作業とは違って人と人が心を通わして、信頼を築くことだと思っている。何をするにも報恩感謝のひのきしん精神で、また、安全第一に訓練されて、2泊3日ここでの貴重な時間を過ごしていただきたい。」とあいさつがあった。



真屋洞爺湖町長



三上 氏

その後、来賓の紹介として元洞爺湖町職員、三上炳（あきら）氏、現洞爺湖町担当者、若木渉氏が紹介され結隊式を終えた。



若木課長

作業開始

結隊式を終えた一同は作業の説明、諸注意を受け現場へと向かった。現場はコミュニティセンターから7分ほど移動したところにある、噴火後造成された『桜公園』。およそ18ヘクタールの面積があるそうだが、公園として11ヘクタールを使用し、エゾヤマザクラなどの木が植えられている。初日はあちこちに植樹された桜周辺の下草刈り。どこもそこも50cm以上に草が伸びている。背丈より高い3mを超すイタドリ群も広がり隊員達の行く手を阻んだが、短時間にも関わらず初日は2ヘクタールの草刈りを終えることが出来た。



背丈を超すイタドリ群

本部主事挨拶

初日の作業が終わりスタッフ会議や班長会議が行われていた頃、本部学生会の御用を終え、葛西直己災害隊本部主事（津軽大教会長）がおちばより駆け付けた。

翌日、朝礼にて早速あいさつをいただく。2004年7月、本部主事となり初めて被災地を訪れました。新潟中越地震の被災地です。やはり現地は非常にどんよりとしていますが、災害隊が活動進めると、住民の方々が明るくなられたと感じました。後日住民の方から災害隊にお礼の手紙が届きました。活動に対する感謝の言葉に加え、一人の男性隊員に対して特にお礼を伝えてほしいとのことで、それはこのような内容です。

避難所での生活は何もかも大変だが、特にトイレは大変で、出来るだけ行かずに済むよう水分も、みな控えていたようで、臭く汚いトイレに行くたびに、人として扱われていないんじゃないかとさえ思え、被災して心が沈んでいる時に堪えた。そうした中、災害隊が活動を始めると一人の隊員が次々とトイレ掃除をしているのに気付きとても有難く思った。それからはきれいなトイレが使えるようになり、皆、人として生きて行けるんだと希望が湧いて心に明るさが出てきた。

という内容でした。真柱様は災害が起きないような、日々のひのきしんの大切さをいつも災害隊に仰せ下さいます。彼はこの時だけトイレ掃除を行ったのではなく、日々

心掛け実行していたのです。この訓練で技術を身につけると同時に、日々の通り方やひのきしんを見つめ直し、心を込めて通ることが神様に伝わって、災害を防いでくださる本来の務めがここにあると思います。」と述べられた。



技根作業

前日、2ヘクタールの草刈りを行った桜公園での作業が二日目も続いたが、打って変わっての晴天。湿度も高く全身汗だくとなった。当然であるが草刈りをする作業場所が広がり、休憩時間となっても休憩テントへは戻らず休む隊員も増えてきた。同時に枯れ木や折れた木の根が目立つようになってきた。今回はそうした木々を手作業ではなく、ミニコンボをレンタルし抜根作業を行った。しかも重機操作訓練を兼ね事前に希望を取って未経験者に作業をお願いした。もちろん経験者がマンツーマンで丁寧な指導を行い、初めて操作した隊員は何度も首をかしげて歯がゆさを滲ますものの、免許取得に意欲をみせた。

生活

今回は今井副隊長を芯に全員男子で食事をはじめ隊員たちの生活を早朝から深夜までエネルギーを注いでサポートした。生活班は事前に食事メニューを決め、食材の買い出しや早朝より旬の野菜の収穫も行い訓練に臨んだ。本期間に入ると生活スタッフも増員したが、スタッフの出入りも激しいため、各班から生活応援隊員を出してもらい安定した生活となるよう心掛けた。メニューの話になるが厨房横の特設テントで暑い中、鶏や羊肉、豚肉などを焼いて提供したり、自家製のシメサバで棒寿司を作ったり、頂戴した沢山の差し入れの食材を活かしたメニューを献立した。

洞爺湖町といえば温泉街。作業後には温泉街5か所のホテルで入浴させていただき、ひと時の温泉気分を味わうことが出来、裸の付き合いで隊員相互の話も弾んだようである。



わかりやすく細やかに指導を行う。

最終日は朝から雨。時折大きな音を立てて降り続け厨房テント周辺は雨水がどつぷりと溜まっていた。朝食後、隊長、副隊長が作業が出来るか現場の様子を確認に走る。斜面の少ない場所なら作業が出来ると判断し、合羽を装備して2個班が出動した。

残った1個班とスタッフは厨房や屋外の資材や厨房テントの撤収を行う。同時に宿舍の清掃も開始され、解散式を行う準備が進められた。

解散式

11時頃になると雨も治まり、雨と汗に濡れた隊員が現場から戻って来た。簡単な着替え済ますと早速、解散式を行った。

解散式には休日にも拘わらず、雨の中、共に作業してくれた若木課長、金子主幹、また、森 寿浩副町長が来賓として出席され、副町長から「洞爺湖町で訓練され大変有難く思う。また、これまでの災救隊、青年会の支援に心よりお礼を申し上げる。洞爺湖は一年を通じて各種イベントなどを行って観光客増加に取り組んでいる。ぜひプライベートでも洞爺湖へお越しいただきご支援下さることをお願いしたい。今後の活躍、ご健勝を祈念致します。」とあいさついただいた。こうして洞爺湖町での訓練を終え各支部へと散会した。

ここ洞爺では隊員のほとんどの者が青年期にひのきしんの汗を流し、生涯の友と出会う友情と信仰を深め、その姿を今も継続している。あらかとよりよう精神を持ち続け、災害のない日々のひのきしんに励もう。

作業報告

参加人数 55名 のべ人数 141名

洞爺湖町桜公園下草刈り 8ヘクタール 刈払い機 30台使用
 抜根および整地作業 35本、3ヘクタール ミニユンボ2台使用
 倒木伐採作業 15本 チェンソー使用
 その他、宿舍内外の徹底清掃、高所照明清掃
 車両 軽トラック5台、2tパネルトラック、2t平ボディ、



訓練への差し入れ

北海道教区長様 洞爺湖町長様 洞爺湖町様 洞爺湖町三上様 旭川支部長様 上川支部様
 雨龍大教会様 倶知安分教会様 栗山分教会様 祝梅分教会様 幾寅分教会様
 園生分教会様 東旭川分教会様 余澤分教会様 北鷹分教会様 北治分教会様

ジンギスカン肉、缶ビール、発泡酒、トマトきゅうりなど野菜各種、食パン、天然水、お米、日本酒、寸志、お茶、焼酎などたくさんの差し入れありがとうございました。



森 副町長。



雨の中、合羽を着用してひのきしんを。中も外もベチャベチャです。